

# 横田

よこた きよたか

# 清隆

さん



居合道の高段者は真剣を用いて演武を行います。稽古が始まると、場は独特の緊張感で張り詰めます。

## プロフィール

■横田 清隆(よこた きよたか)さん/長都駅所在住/学校法人千歳学園 理事/メリー幼稚園・第2メリー幼稚園 園長/昭和52年から居合道を始め、今年5月に全日本剣道連盟 居合道の最高位称号《範士》に合格。全国で53番目、北海道で唯一の範士となった。

日本刀を用いる武道の《居合道》。試合では、2人の出場者があらかじめ定められた全日本剣道連盟(全剣連)居合と各流派の《形》を演武し、修行の深さ、礼儀、技の正確さ、心構えなどを審判員が判定して勝敗を決めます。

今年5月、居合道の最高位称号である《範士》に合格した横田さん。範士は、8段となった後、8年以上が経過し、地方代表団体長から推薦または全剣連の会長が適格と認められた者によりのみ審査資格が与えられ、合格者がいない年もあるほどの狭き門です。

技量のみならず、識見や人格に優れた剣士のみならず、与えられるという、名誉ある称号を手にした横田さんにお話を聞きました。

### ●居合道を始めたきっかけは?

昭和52年に、何か趣味をもっと訪れた札幌市中央体育館で、居合道の

演武を見たことがきっかけです。最初は、弓道に興味があったのですが、その日はたまたま弓道の稽古が休みだったのです(笑)。でも、初めて見た居合道の演武は、とても格好良く、すぐに挑戦してみたいと思いました。

### ●長年、居合道を続けられた理由は?

実は、私は空手や少林寺拳法も習っていたことがあるのですが、こちらは全然続きませんでした。居合道に、私が魅せられたのは、自分にとって難しかったからではないかと思っています。なかなか思ったとおりに身体が動かない悔しさがあるから、何度も稽古を重ねるのです。居合道では、同じ形を何十年と繰り返し稽古していくのですが、私は、いまだに一度も理想の演武ができたことはないと思っています。そして、今後もないでしょうね。

居合道は、試合の勝ち負けや相手

## 居合道・範士八段の思い

「命絶えるまで、自分の《道》を求め続ける」

を斬ることを目的とした武道ではありません。己を極限まで高め、刀を抜かずして、敵をいさめることが居合道の真髄です。日々の稽古を通じて、自分と向き合い、心身を鍛練することが目的であり、そこに終わりはありません。私も、命絶えるまで、自分の《道》を求め続けるでしょう。」

### ●自身の鍛錬や指導で大切にしていることと今後の目標は?

「これは、私の師から引き継いだ教えなのですが、まず何でも真面目に一生懸命やること。居合道の稽古だけではなく、仕事や家事など生活に関わるすべてのことに対して真摯に取り組むことが大切です。居合道の演武には、必ず普段の生活態度が表れてくるものなのです。」

また、演武の一つ一つの動作には意味があります。なぜこのような動

作をする必要があるのか、理解して稽古しなければいけません。たとえば、居合道では、正座をするとき、足の指先を重ねません。これは、敵が襲ってきたときに、すぐに動けるようにするためです。

今回、範士の称号をいただいたことで、指導者として、いっそその責任を感じています。自分の尊敬する師のようになれるだろうか戸惑いも感じます。一方で、師の演武をこれから追いつく、また、その教えを傳承していくことが私の使命だと思っています。」

横田さんは、幼稚園の園長をされています。普段は、子どもたちに親しまれる優しい笑顔ですが、ひとたび真剣を手にする、と、鬼気迫る剣士の顔に一変。その表情には、厳粛に道を追い求めてきたがゆえの風格が感じられます。